

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

年間活動レポート

2021年版



子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

力を合わせる 子どもと湖が笑ってる未来へ

今年、「びわ湖の日」40周年。

「子どもたちの未来とびわ湖を守りたい！」の想いを共に
人々が手を携え、大きなうねりをつくった「せっけん運動」の記念日です。

いま、グレタ＝トゥーンベリさんの行動に勇気づけられ
気候危機の回避と社会の仕組みの変革（システムチェンジ）への
世界的な連帯が広がっています。

私たちの暮らす滋賀でも、多くの若者と市民が、
一人ひとりの足元から、日々の暮らしと経済を変えようと、
さまざまなチャレンジを始めています。

“しがCO2 ネットゼロ”ムーブメント、マザーレイクゴールズ（MLGs）などの
県の政策も始まりました。

碧いびわ湖は、世代を超え、立場を超え、人と人が力を合わせて、
「安心を実感できる暮らし」と「持続可能な社会」、
そして「命あふれるびわ湖」を
取り戻す歩みを続けます。

あなたの手、わたしの手、
そしてこの子の小さな手。
そのすべてが、未来への希望です。



一人ひとりの想いと力を寄せ合って

碧いびわ湖は、「自治」と「協同」によって運営される市民事業体です。一人ひとりの想いと力を持ち寄り、望む暮らしを共に描いて行動し、運動や事業を生み出します。

地域づくり	共同購入・リサイクル	住まいづくり
<p>ホテルが自生する川づくりや環境学習事業（守山市）、マザーレイクゴールズ（MLGs）の推進（全県）など、人々が助け合い、誰もが未来に安心と希望を抱ける暮らし・社会をつくる「地域づくり事業」を行っています。</p> 	<p>びわ湖とその流域の水と土を守る農産物や間伐材を使った紙製品、リサイクル製品をみんなで購入する「共同購入事業」と、製品の原料となる牛乳パックや廃食用油を多様な人々の協力で集める「リサイクル事業」を行っています。</p> 	<p>ワークショップなどを通じて人々が共に学び、力を合わせ、森の木、雨水、太陽熱など身近な自然を生かす住まいをつくる「住まいづくり事業」を行っています。子育てと暮らしを共にするコミュニティ住宅にも取り組んでいます。</p> 
市民自治・政策提言		
<p>市民メディア「あまいろだより」の発行や、子育て中のお母さんがほっとできる場「あすもの日」の運営など、一人ひとりの想いと力を持ち寄り、目指す暮らしに向けて力を合わせる「市民自治」をしています。気候変動や琵琶湖や教育などに関して、多様な市民が学び合い、行政や企業などにはたらきかける「調査研究・政策提言事業」もを行っています。</p>		

はじめりは、琵琶湖のせっけん運動でした

1977年5月、琵琶湖の湖面が赤錆色に染まり、異臭が漂いました。プランクトンが異常繁殖する「赤潮」という現象で、洗濯に使われていた有リン合成洗剤がその原因でした。生協、婦人会、労働組合などが協力してせっけんの使用が進められ、1980年には県内で有リン合成洗剤の販売を禁じる富栄養化防止条例（びわ湖条例）が制定されました。



せっけん運動の一翼を担った「湖南消費生活協同組合」の中から、1989年に「滋賀県環境生活協同組合」が設立され、環境に重点を置いた市民事業と地域づくりを行いました。2009年、この生協の事業を継承して生まれたのがNPO 碧いびわ湖です。子育て世代を中心に、40年以上にわたる運動と事業を継続しています。

【市民自治】 大切なことを他人任せにしない

世界は、気候変動という大きな問題に直面しています。琵琶湖でも、2年連続、全層循環が観察されないということが生じ、「予想以上に早くにこうしたことが起きた」と指摘されました。自然の生態系や、人間社会の活動は、さまざまな要因が相互に作用しあっていて、とても複雑でわかりにくい状況になっています。身近な人と信頼関係をつむぐこと。またすこし広く、違いを認め合ってつながり、ともに行動することが力になります。



2020年9月、世界危機アクションにあわせ、石山駅前での多くのおみなさんとともにアピール



あまいろだより vol.44 「家もエネルギーも自給する」



お母さんがホッと一息つける場「あすもの日」

●手作り市民メディア「あまいろだより」

有志メンバーでつくる「あまいろ探偵団」(5人)で、毎回、多彩なゲストとともに対話し、記録・編集している手作り市民メディア「あまいろだより」を3回発行しました。また、3月には湖南市内の小学校にて「ミツロウラップづくり」の出前授業を行いました。



小学校での出前授業の様子

●ホッとひと息つける場「あすもの日」

碧いびわ湖と、こども園そら(草津)、ちいさいおうちようちえん(守山)、せた森のようちえん(大津・栗東)とのパートナーシップにより進めています。乳飲み子をかかえるお母さんのホッと一息つける場「あすもの日」を7回開催しました。



Instagram@asmo_shiga 情報発信中

●気候危機アクション・ネットワーク

滋賀県に気候非常事態宣言を求める請願を出された人や、Fridays For Future Shigaの若者たちとともに、9月には世界気候危機アクションin石山駅前に参加し、県議会で全会一致で請願が採択された後、三日月滋賀県知事との対話の場にも参加しています。



三日月知事との対話(2020年11月)

●マザーレイクフォーラム——創発自治PJ

マザーレイクフォーラムの計画最終年度にあたり、つぎの10年に向けて、オンラインでの対話を含め、さまざまな主体と連携した企画、活動に参画しました。2021年7月には、新たな仕組みとして、MLGs(マザーレイクゴールズ)が策定される見通しです。



「BIWAKO トークカフェ Vol.2 つながる清掃活動〈釣り人×バードウォッチャー〉」

<おもな活動・事業>

- 手づくり市民メディア「あまいろだより」Vol.42~44(3回)発行
- 出前授業「ミツロウラップづくり」湖南市内の小学校にて(1回)を開催
- お母さんがホッと一息つける場「あすもの日」を開催(7回)
- 世界気候危機アクションin滋賀に参画し、三日月滋賀県知事との対話に参加(3回)
- マザーレイクフォーラム——創発自治プロジェクトに参画・連携(6回)ほか

【地域づくり】 子どもと湖が笑ってる未来へ

最近よく、「いまの時代は、あらゆる環境が目まぐるしく変化し、将来に対する予測がつかない」と言われます。世界では、気候変動を緩和するために経済社会をシステムチェンジできるのか、あるいは、気候変動がもたらす未曾有の出来事にいかに適応するのか。他方で、国内では人類が未だ経験したことのないペースでの人口減少が進んでいます。

未来を生きる子どもたちに、私たちはなにを手渡せるでしょうか。

子どもたちが、幼少期から身近な自然環境で、異年齢を含む集団のなかで思う存分に遊ぶことができる機会を増やそうと取り組んでいます。困難な状況にあっても、仲間とともにたくましく生き抜く力を育みたいのです。



滋賀県立大学の瀧健太郎さんが、京都大学防災研究所と行う共同研究に参加し、守山市にあるあまが池プラザにて、防災×環境学習を行いました。流れる水の動きを目の前で手に取るように再現してくれるジオモデルを使った学習。



25名の子ども議員の意見表明をサポート



野洲川下流部（守山市）での川遊び・環境学習

●滋賀県子ども県議会

昨年度につづき、滋賀県の事業を受託し、運営にあたりました。県内のネットワークでつながる、さまざまな専門分野の大人にゲストに来ていただき、子ども議員との話し合いも実施しました。

●親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ

(株)みらいもりやま 21 (守山のまちづくり会社) とともに 2016 年より取り組んでいるほたるが自生する河川環境づくりを継続しています。親子による環境学習クラブ「ルシオール・キッズ・クラブ」で、11月に開催された「キャンパス SDGs びわ湖大会」(滋賀県立大学)にオンライン参加しました。

●野洲川で遊ぶの大好き！クラブチーム

琵琶湖河川レンジャー制度にもとづき、野洲川下流部にて川と人、住民と行政をつなぐ住民コーディネーター活動を継続しています。

野洲川で川遊びを行うとともに、河川清掃活動も行いました。また、10人乗りカヌーを活用した環境学習もはじまりました。地元の自治会と連携した保全活動にも参画しています。

他方、守山市環境学習事業推進委員会にも参画し、多くの住民や団体、企業、公的機関のみなさんと活発に語り合い、守山市の新たな環境学習事業のメニューづくりを行いました。

<おもな活動>

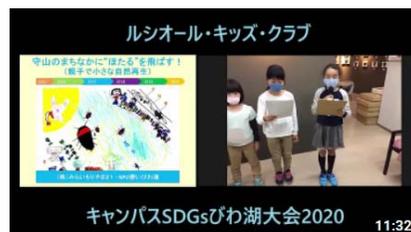
- 滋賀県子ども県議会 (9~12月)
- 親子でほたるを飛ばす！「ルシオールキッズクラブ」(川に学ぶプロジェクト)
- 滋賀県立大学瀧健太郎研究室・京都大学防災研究所共同研究 (参加協力)
- 川と人、人と人をつなぐ住民コーディネーター (琵琶湖河川事務所)ほか



ゲストを迎えての第2回活動の様子



守山のまちなかにある「あまが池親水緑地」での小さな自然再生の活動の様子



Youtube で発表の様子を配信しています



野洲川では、カヌー (E ボート) をつけた活動もはじまりました！

【住まいづくり】 学び、つながる 住まいづくり

循環型の住まいを、学びながらつくる活動に取り組みました。プロの指導のもと、子どもたちの手で基礎から東屋をつくるワークショップにもチャレンジ。新たな可能性が拓かれました。



あさがら野 子どもと自然舎（栗東市）での東屋づくりワークショップ。掛矢の音がコーンコーンと森に響きました。



基礎の穴掘りやコンクリートも子どもたちの手で。



屋根もみんなでトントンカンカン、はりました。

●子どもたちの手で東屋づくり！

2020 年秋、栗東市のあさがら野 子どもと自然舎で、子どもたちの手による東屋づくりに初チャレンジ。プロの指導と、多くの大人の見守りの中、基礎の穴掘りとコンクリートの流し込みから屋根の板金まで、すべてを子どもたちがやり遂げました。年長の子たちが学んだことを、年下の子どもたち一人一人に合わせてで教える様を目にして、子どもたちには「学ぶ力」だけでなく「教える力」が豊かにあることを実感しました。

●「あまみちのデザイン」ワークショップも

雨水タンクの設置もワークショップで行い、学びの機会としました。地球規模からタンクの規模まで共通する水の動きや、暮らしの中での水の用途や使用量を振り返ったうえで、どこにタンクを置くのがいいのか、容量はどのくらいがいいのか、などを、みんなで考えて設置しました。竹藪での野外活動用の雨水タンクの設置も行いました。

●コミュニティ住宅づくりに向けた関係構築

人々がエコロジカルな子育てや暮らしを共にできるコミュニティ住宅の実現に向け、日野町内で人びとの関係構築とリサーチを進めました。空き家のオーナー、近隣住民の方々、移住希望者、町役場担当者、コーポラティブハウスの運営者などからお話を伺ったり現地訪問を重ねて、次年度以降の事業実現に向けた人的ネットワークと知見を蓄積しました。



個人宅での雨水タンク設置ワークショップ
(近江八幡市内)



竹藪での雨水タンク設置ワークショップ
(京都府向日市)



移住希望者、移住経験者、空き家所有者、行政職員が会しての座談会（日野町）

<数字で見る 住まいづくり事業の成果>

●雨水タンク設置	6 件	●太陽熱温水器設置	2 件
●リフォーム・部分修繕等	22 件		

【共同購入・リサイクル】 つながり、つづける

長年続けている共同購入とリサイクル事業を、今年も継続しました。新型コロナウイルスの影響下でも、多くの方々と事業者さんが参加を継続くださっています。



開催ミルクロードの仲間、みんなの労働文化センター（尼崎市）の永岡亮さんが碧いびわ湖をお訪ねくださいました。

●関西ミルクロードの会のこれから

牛乳パックの回収と、「おかえりティッシュ」& 「ただいまロール」の供給の仲間である関西ミルクロードの会のみなさんと、活動を活性化して仲間を広げるための方策を、オンラインも活用して議論し、交流を深めました。この成果をもとに、今後、具体的な取り組みを進めていく予定です。

●心温まる味噌づくり

大津市のえくぼ保育園では、長浜の大戸洞倉のお米を給食にお使いいただいています。この冬には大豆も購入され、年長さんたちがかまどでの味噌づくりにチャレンジしました。お味噌ができる頃には小学生だから自分は食べられないけど、小さい子たちのためにと一生懸命、薪をくべてつくったそうです。♡

<数字で見る 共同購入・リサイクル事業の成果>

●お米供給量	5,530 kg	省農薬みかん供給量	5,035 kg
●粉せっけん「びわ湖」供給量	2,279 kg	←●廃食用油回収量	5,358 L
●液体せっけん「ゆう」供給量	1,020 L		
●トイレロール「ただいまロール」等供給量	10,243 袋	←●牛乳パック回収量	367,563 kg
●ティッシュ「おかえりティッシュ」供給量	3,633 袋		

2021年7月1日

マザーレイクゴールズ (MLGs) がはじまります！



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

- | | | | | |
|------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| 1
清らかさを感じる水に | 2
豊かな魚介類を取り戻そう | 3
多様な生き物を守ろう | 4
水辺も湖底も美しく | 5
恵み豊かな水源の森を守ろう |
| 6
森川里湖海のつながりを健全に | 7
びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう | 8
気候変動や自然災害に強い暮らしに | 9
生業・産業に地域の資源を活かそう | 10
地元も流域も学びの場に |
| 11
びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう | 12
水とつながる祈りと暮らしを次世代に | 13
つながりあって目標を達成しよう | | |

びわ湖の日 20 周年の 2001 年に、滋賀県は市民参画型の琵琶湖の保全再生計画「マザーレイク 21 計画」を策定しました。碧いびわ湖も 2009 年から参画してきたこの事業を継承し、びわ湖の日 40 周年となる今年、新たにマザーレイクゴールズ (MLGs) が始まります。

碧いびわ湖は今年、この MLGs の推進事業の事務局を担うことにもなりました。学生～20 代の若者たちの参画も得て、人びとの行動と協力を生み出し、琵琶湖とその流域の自然環境を豊かに守り生かしていける暮らしと自治を、育んでいきたいと思ひます。

スタートは 7 月 1 日、びわ湖の日。ご参画とご協力のほど、よろしくおねがいたします！

お気軽にご参加ください

→ イベントに参加してみる

碧いびわ湖では、様々な体験や学び、出会いのあるイベントを企画実施しています。Facebook ページなどで告知や実施報告を掲載していますので、まずは「いいね！」でフォローしていただいて、参加したいと思ったものにご参加ください。

●Facebook→「碧いびわ湖」検索して” いいね！”



→ 入会する、寄付をする、活動をする

自分が活動を担うことで、より深い経験やつながりを得ることができます。活動に協力したい、参加したい方は、ご入会ください。会員は毎年5月に開催される会員総会にもご参加いただけます。

- ・運営会員 1000 円/口・年（複数口可）議決権あり
 - ・賛助会員 3000 円/口・年（複数口可）議決権なし
- 寄付も随時お受けしています。

●入会・寄付・ボランティア→お問い合わせください



→ 事業の利用で参加してみる

共同購入や住まいづくりなどの事業をご利用いただくことで、ご自身の日々の暮らしを具体的に変わっていくことができます。会員でない方もご利用いただけます。リサイクル活動への参加も可能です。

- 共同購入→「碧いびわ湖 共同購入」[検索](#)
- 住まいづくり→「碧いびわ湖 住まいづくり」[検索](#)
- リサイクル→お問い合わせください



▲碧いびわ湖の共同購入サイト

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

電話 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3
メール info@aobiwako.org
HP <http://aobiwako.shiga-saku.net/>

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖